



よい子 つよい子 できる子

新井小学校たより 平成27年度10月号 平成27年10月20日
HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

「若竹フェスティバル」お待ちしております。

校長 金子 博信

今年の夏から秋にかけて、音楽関係のコンクールや体育関係の各種大会が開催され、子どもたちは、春から練習に取り組んできた力を発揮して、それぞれ素晴らしい成績をあげてくれました。6月に行われた市親善ミニバスケットボール大会では女子が見事優勝し、男子も3位になりました。合唱部は、NHK全国学校音楽コンクール上越地区大会で銀賞、県大会でも持ち前の透き通った声を響かせ、銀賞に輝きました。吹奏楽部は、県吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、念願の西関東吹奏楽コンクールの出場権を得ました。西関東大会では銅賞でしたが、今までで一番の素晴らしい演奏を披露してくれました。また、体育関係では、9月に行われた市親善陸上大会で全30種目中16種目に優勝し、その他にも多数の子どもたちが入賞を果たすなど大活躍でした。さらに上越地区小学生陸上選手権大会では、6年女子走り幅跳びに優勝したほか6種目8個の入賞を果たしました。その他にも、上越地区小学生水泳選手権大会で3名の子どもが出場して全員入賞するなど、今年は、子どもたちが例年以上に、素晴らしい成果をあげ、新井小の新たな歴史の1ページを飾ってくれました。これも子どもたちが先生方の指導を素直に聞き入れ、誠実に練習に取り組んできたことや統合によって、子どもたちが互いに刺激し合って意欲が高まったことなどが、好成績につながった要因かなと思っています。

私は、子どもたちには「コンクールや大会、学校行事などで結果を出すことも大切ですが、それよりもそこに向かうための心構えをもつことや目標に向かってコツコツと努力すること、そして、本番では自己のベストを尽くすことが大事です。そうすれば結果はどうあれ、自分の中に何かが残るはずですよ。それがあなた方の力になります。」と折に触れ話してきました。この言葉を受けてかどうかは定かではありませんが、コンクールや大会に参加してくれた全ての子どもたちが、普段の実力以上の頑張りをを見せてくれたことが何よりも嬉しいです。限られた練習時間の中で一生懸命に励んできた子どもたちに、心からの拍手を贈りたいと思います。

さて、本年度も「若竹フェスティバル」の日が近付いてまいりました。今学校では、子どもたちも職員も当日に向けて、音楽発表会の練習や作品づくりに一生懸命に取り組んでいます。今年のフェスティバルは、統合して初めてのフェスティバルなので、旧斐太南小、旧姫川原小の子どもたちは、新井小のフェスティバルの雰囲気がわからないため、不安を感じているのではないかと思いましたが、担任に聞いてみると「プロジェクトの一員として、先頭に立って引っ張っていつてくれている子もいますよ。」という返事が返ってきて、少しホッとしました。両校出身の子どもたちもすっかり新井小に馴染んで自分を発揮してくれているようです。

昨年度から、保護者や地域の皆様のご意見を踏まえて、フェスティバルの内容を一部変更させていただきました。音楽発表会では一般・保護者席を増やし、展示作品も絵画の他に工作や家庭科作品等をもう1品増やしました。また、各教室の背面には春から取り組んできた生活科や総合学習の取組の様子が分かる写真等も掲示するようにしましたので、ぜひご覧ください。

P T A役員の皆様方からも若竹縁日やP T A作品展示の準備等にご協力いただきありがとうございます。さらに、今年度はフェスティバルのエンディングで子どもたちのためにP T Aの出し物をご準備してくださっているとのこと。どんな出し物なのか乞うご期待です。

今まで新井小の子どもたちは、素直で人に言われたことは誠実にやり遂げようとする良さがある反面、自主的・自発的に行動することが苦手な子が多かったのですが、昨年度から子どもたちの主体性を重視した活動を取り入れてきたことで、少しずつ自ら進んで取り組む姿が見られるようになってきました。運動会の際も、自分たちでスローガンを決めて、できるだけ先生方に頼らずに準備を整え、当日も運営を立派に行い成功させてくれましたが、フェスティバルにおいても、代表委員会で話し合っただけのスローガンを決め、一人一人が本番に向けての心構えと目標をもって、一生懸命に練習や作品作りに取り組んでいます。時間が少なく皆たいへんな思いをして頑張っていますが、この当日までのプロセスこそが子どもたちの力を育てる大事な時間だと考えています。

さて、今年のフェスティバルはどんなフェスティバルになるのでしょうか・・・？。スローガンは「**みんなが主役！！夢をいだって 絆をふかめよう**」です。音楽発表会では、各学校年の発表のほか、合唱部や吹奏楽部も素敵な演奏を披露してくれます。子どもたちはきっと素晴らしいパフォーマンスを見せてくれることと思います。多くの皆様のご来場をお待ちいたしております。

<学年の活動紹介>

にじいろ 1年生

「しろくん」です。よろしく！

9月上旬、1年生に入学した、やぎの「しろくん」。

1年生は、班ごとにお世話をがんばっています。毎日、小屋の中からすのこを出して、慣れないほうきを使いながら一生懸命に掃除をしています。えさをあげても、すぐに「めえ〜」と鳴き出し、「どうしたのかな？」と気にしています。

「しろくん」は、言葉を話せませんが、その行動から「しろくん」の気持ちが分かるようになってほしいものです。



たいよう 2年生

若竹フェスティバルに向けて

いよいよ若竹フェスティバルまで、あとわずかになりました。午前に行われる若竹音楽発表会に向けて、子どもたちは熱心に練習に取り組んでいます。

ステージの立ち位置や役割も決まり、子どもたちの気持ちが引き締まってきました。練習では、みんなで声や楽器をそろえようと、パートに分かれて何度も練習を繰り返しています。次第にみんなの心が一つになってきて、演奏も上手になってきました。子どもたちの発表を楽しみにしてください。

ひまわり 3年生

がんばって走ったマラソン大会！

5日（月）に、校内マラソン大会が行われました。

マラソンで一番大切なことは、順位よりも自分の心に負けないことです。子どもたちは、「最後まで諦めないで走る」「タイムを少しでも縮める」などの目標を立て、熱心に練習に取り組みました。本番では、全員が最後まで完走することができました。振り返りでは、「自己ベストが出せた」「歩かないで最後まで走れた」という記述が見られるなど、自分の心に負けず目標を達成することができました。





スマイル 4年生

間伐・下草刈り体験！

上越森林管理署と妙高市役所のご協力を得て、五万戸国有林で間伐・下草刈り体験を行いました。

木を切るときは、倒したい方向から斜めにのこぎりを入れ、最後は手で押して木を倒しました。木が倒れると、子どもたちから大きな歓声が上がりました。下草刈り体験では、大きな鎌を使って、雑草を取り除きました。

今回の体験で、働いている人々の苦労や努力によって、森林が守られていることに気付くことができました。

あおぞら 5年生

妙高あらいまいもまつり大成功！！

3日（土）に、さん来夢あらいで行われた妙高あらいまいもまつりに参加しました。

子どもたちは、この日のために休み時間も使って準備を行い、華麗舞をたくさんの人に知ってもらえるようにがんばりました。おかげで華麗舞春巻きは即時完売！華麗舞のPRだけでなく、新井の地域を元気にする一躍を担うことができ、満足感を感じていました。

華麗舞春巻きは、若竹フェスティバルでも販売します！！



チャレンジ 6年生

修学旅行に行くその前に・・・

7日（水）に、修学旅行の事前学習として高田城について学んだり、前島密展を見学したりするために、高田公園方面へ校外学習に出掛けました。学芸員の方や上越市立大手町小学校の6年生から説明を受け、高田城は徳川家と関係が深いことや、三重櫓等について学びました。

また、公共交通機関の利用の仕方、集合整列の仕方、班行動についても校外学習を通して、事前学習をすることができました。修学旅行本番では、更に成長した姿が期待されます。

本のよさを発見！豊かな心を目指して！

学校図書館には、大きく分けて2つの機能があります。一つ目は、「読書センター」としての機能、二つ目は、「学習・情報センター」としての機能です。

そこで、新井小学校ではこれらの機能が有効に働いているか振り返りました。「読書センター」としての機能は、朝読書、図書館ボランティアによる読み聞かせ、蔵書数の多さ（約二万冊）など子どもたちが読書に親しめるようになっていきます。

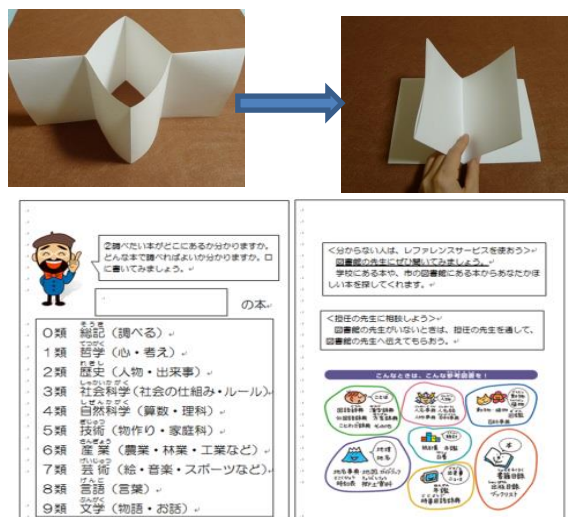
「学習・情報センター」としての機能では、新井小学校はメディアセンターという図書とパソコンが近くにあるという恵まれた環境があります。しかし、子どもたちの学習の様子を見たり、調べ学習をする際に困っていることを子どもたちにアンケートを行ったりすると、3点の課題が浮かび上がりました。1点目は、調べ学習を行う際、パソコンを使うことが多く、図書の利用が少ないこと、2点目は、調べ学習に活用できる図書が少ないこと、3点目は、子どもたちが調べ学習の手順を大まかにしか把握していないことです。

そこで、本年度の図書館教育のテーマは、「本のよさを発見！豊かな心を目指して！」と設定しました。このテーマには、絵本や物語はもちろんですが、子どもたちに「他の分類の本を調べ学習などで活用してもらうことで、本のよさに気付いてほしい」「様々な分類の本に触れ合うことで、知識量を増やしたり、想像力を豊かにしたりしてほしい」という願いを込めました。

テーマに沿いながら、以下のような取組を行っています。

(1) 「調べ学習カード」の取組

子どもたちが、調べ学習の手順をしっかりと理解したり、図書とメディアを上手く併用しながら学習を行ったりするために、「調べ学習カード」を作成し、3年生から6年生で使用しました。紙に切り込みを入れると、本の形式となります。ページをめくっていくと、調べ学習の手順を理解することができたり、引用のきまりやメディア活用についての留意点などを確認したりすることができます。



(2) メディアセンターの環境整備



インターネットを使用する際、子どもたちにとって難しい語句が記載されていることが多くあります。そんな時、分からない語句や漢字をすぐに調べられるように、国語辞典、漢字辞典をパソコンの近くに配置しました。

また、百科事典では、古い情報のものが多かったので、ポプラディアの最新刊を購入しました。

(3) 図書委員会による活動

百科事典（ポプラディア）を全校のみんなに活用してもらうために、児童朝会で、クイズ大会を行いました。ポプラディアのことを知ってもらうために図書委員会の子どもたちは、進んで活動を行いました。



これらの他にも様々な取組を行っています。成果としては、昨年度の貸し出し冊数を比べると0から8類の貸し出し冊数などが増えています。大変喜ばしいことです。今後も、進んで本に触れ合い、本のよさを発見できるように、取組を進めていきます。